2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標の達成度	(イ) 避難民に対する生活物資支援 (ロ) 避難民および受け入れ地域住民 (帰還民) に対する生計向上活動支援、の二つの活動によって、概ね目標を達成した。(詳細は後述、また添付資料参照)
(2) 事業内容	<p>(イ) 避難民に対する生活物資支援</p> <p>※添付の補足説明のほか、「配布記録」を参照。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 1,346 世帯 (約 8,000 人) に生活用品を提供した。 ● 対象避難民として、(A) カドグリ郡内に到着後 1 ヶ月以内の避難民、また 1 ヶ月以上警戒してもこれまで支援を受けていない避難民、(B) カドグリから遠隔地にあたる州内各地での避難民や他の援助団体の支援が行き届かない避難民の 2 種を想定し、合計で上記世帯を支援。 ● 内容を一部見直したが、調理用具セット、毛布、防水シート、生活・就寝用ゴザを調達、配布を完了した。 ● 計画では 1,000 世帯 (6000 人程度) を配布対象として見込んでいたが、それを上回る避難民に支援を実施することが出来た。 <p>(ロ) 避難民および避難民を受け入れている受入地域住民 (帰還民) に対する生計向上活動支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ● カドグリ郊外のムルタ、ハジェラナル両地区の避難民と受入地域住民を対象として実施。 ● 内訳として、農具・種子配布を受けた世帯は、2 地区合計 1,600 世帯、避難民はそのうち約 300 世帯。菜園研修の受講生は選別された 200 名。 ● 手掘り井戸の改修・新規造成については、ムルタ地区において、灌漑用の池や用水路 20 ヶ所程度の改修を支援した。 ● ハジェラナル地区の手掘り井戸 1 本の改修を試みたが、水量が不十分と判明した。 ● また、ハジェラナル地区では用地取得に問題が生じ、個別に耕作することになった。各世帯または複数世帯が遊休地など各自菜園用の土地を確保したり、種子を保管して雨季を待つなどして耕作を実現した。中には共同で作業をしている例もあるが、ムルタに比べ、避難民と受入地域住民の協働という当初の目的を満たす形態ものではない。 ● 配布した農具はクワとスコップの 2 種。 ● 配布した種子は、各世帯オクラ、ルッコラ、モロヘイヤ、ダイコンを各 30g、ナス 20g、クレソン 50g、ソルガム 2 種、メイズ 1 kg、ゴマ 500g、ササゲ豆 500g を、時期をずらしつつ、農家の在庫を観察し、また予算調整しながら配布した。 ● 菜園研修は、南コルドファン州農業省技術普及部門の専門家 2 名を招聘し、1 月に実施した。野菜の栄養素についての講義の後、農業技術について実習を交えて行った。さらに、病虫害や水不足についての技術指導を受けた。

(ここでページを区切ってください)

<p>(3) 達成された成果</p>	<p>(イ) 避難民が、生活物資を確保して最低限の生活環境を整える。 【指標】生活物資の受益世帯数(計画: 約 1,000 世帯/6,000 人)</p> <p>(ロ) ホストコミュニティ住民(帰還民)が乾季の野菜作りを実施し、食料不足の解消及び収入向上に結び付く。 【指標】活動に参加する住民数約 500 世帯/3,000 人、野菜の収穫量、収穫物を市場で販売する回数と売上(3日毎×2ヶ月=20回、1回の売上およそ 30SDG)</p> <p>(ハ) コミュニティ内の避難民が野菜作りに参加し、自らの食料不足の状態が緩和され援助への依存から脱却する 【指標】活動に参加する避難民の人数(計画: 約 100 世帯/600 人)、野菜の収穫量、収穫物を市場で販売する回数と売上(3日毎×2ヶ月=20回、1回の売上およそ 30SDG)</p>	<p>(イ) 達成。 1,346 世帯が生活用品を入手することにより、一定の生活環境を確保した。</p> <p>(ロ) ほぼ達成 【参加世帯数】配布を受けた帰還民(受入地域住民)世帯は 1300 世帯。 【野菜の収穫量・販売回数と売上額】自家消費のほか、市場で販売された余剰分が出た。世帯あたりの月間平均 150SDG (3000 円強)。5 月までの延長期間を考慮に入れると、ほぼ指標に達する。</p> <p>(ハ) ほぼ達成 【参加世帯数】配布を受けた避難民世帯は約 300 世帯。 【野菜の収穫量・販売回数と売上額】収穫物の販売については上記(ロ)の通り。</p>
<p>(4) 持続発展性</p>	<p>(イ) 避難民に対する生活物資支援 元の居住地は帰ることの出来る目処はたたないの、避難先で生活を建て直さねばならない。その最初の生活の足掛かりを得る、という点で物資提供は効果を発揮した。避難民は地縁血縁の中で地域の自然資源、社会資源を使って避難生活を始めるため、生活必需品を一度受け取れば、数次にわたって配給を要することはない。</p> <p>(ロ) 避難民および受け入れ地域住民(帰還民)に対する生計向上活動支援 受益者の中には収穫で得た現金収入によって追加の種子を購入したり、用地や用水の管理についての話し合いに積極的に参加し、灌漑用水池の整備を通じて共同の維持管理を促すなどのことから次期の耕作をより拡充させるといった者も見受けられ、地域社会の中で生活基盤を確かなものになっている。 また、当初野菜栽培は手間や時間がかかるという理由で敬遠していた避難民・帰還民にも、現金収入が期待できることを知って参加す</p>	

	<p>るものが現れた。動機はどうあれ、JVC から提案した生計手段の一選択肢をとりあげ、菜園に出て生計手段を確保するようになったことは、持続発展性のあらわれとみることが出来る。</p> <p>当団体では、同じく NGO 連携無償資金協力によって隣接地区で同様の事業を開始した（2013 年 7 月 1 日）が、その案件形成に至ったのも、上述のような今般の緊急人道支援事業で得られた成果と持続発展性の見通しにより、確かな評価が得られるとの手ごたえを得たためである。</p>
--	---